

Vol.2

フィンランド



東嶋和子の

Energy満タン!

世界紀行



Vol.2

フィンランド

東嶋和子 Wako Tojima

科学ジャーナリスト・青山学院大学非常勤講師



12月、ラジオからクリスマスソングが流れてきます。サンタクロースの国フィンランドでは、クリスマスは冬の最大イベント。11月半ばから街中がイルミネーションで彩られ、家々の窓にはキャンドルや豆電球が灯ります。首都ヘルシンキの港にある「フィッシャーマンズ・ワーフ」には、サーモンやソーセージを山盛りにした店が並び、寿司バーが提灯を吊り提げます。クリスマス飾りの露店をひやかしたら、「グロッキ」で乾杯。赤ワインに干しブドウとアーモンドを入れた甘いホットワインで、心も体も芯から温まります。

港からフェリーで15分ほどの海上に浮かぶのが、スオミンリンナ島。「フィンランドの要塞」という意味です。フィンランドは、長い間スウェーデン、ロシアに支配された後、独立を果たしたのは1917年のこと。近隣の国に翻弄されたフィンランドの歴史を物語るこの島は、世界文化遺産に登録されました。島には要塞の跡がなまなましく残り、大砲もかつてのまま海へ向いています。

フィンランドのエネルギー政策には、こうした歴史が色濃く反映されています。面積(33.8万km²)は日本よりやや小さく、人口(550万人)は兵庫県ほどですが、寒冷なため、1人あたりの1次エネルギー消費量(約6.24トン〈石油換算〉)は、日本のおよそ2倍。わずかな泥炭のほかに化石燃料資源がないフィンランドは、石油と天然ガスを輸入でまかっています。とくに、原油輸入の80%以上はロシアに依存しています。このため、1977年から原子力発電を導入してエネルギー自給率を高めてきました。豊富な水資源と森林資源の再生可能エネルギーもあって、自給率は今や53%に達しています。

裏面に続く →

● フィンランドの原子力発電所

分類	発電炉	炉型	出力	営業運転開始年など
運転中	ロビーサ 1号機	ロシア型PWR	53.1万kW	1977年 営業運転
	ロビーサ 2号機	ロシア型PWR	53.1万kW	1981年 営業運転
	オルキオ1号機	BWR	92 万kW	1979年 営業運転
	オルキオ2号機	BWR	92 万kW	1982年 営業運転
建設中	オルキオ3号機	欧州型PWR	172 万kW	2005年 着工 2022年 2月営業運転(予定)
計画中	ハンヒキビ 1号機	ロシア型PWR	120 万kW	2022年 着工(予定) 2028年 営業運転(予定)

PWR(加圧水型)、BWR(沸騰水型)

日本原子力産業協会「2021世界の原子力発電開発の動向」をもとに作成

フィンランド
FINLAND

炉型	運転中	建設中	計画中
PWR	■	■	□
BWR	■	—	—

オルキオ

1 2 3

ハンヒキビ
1

ヘルシンキ

ロビーサ

1 2



1986年のチェルノブイリ原子力発電所事故後、原子力発電所の新規計画は止まりましたが、4基の発電所が安全に運転を続けていることや気候変動への関心が高まったことから2002年、議会は新規建設を承認しました。フィンランドでは30年ぶり、ヨーロッパでも15年ぶりの決定です。これが、「原子カルネサンス」と呼ばれる流れの端緒になりました。

チェルノブイリの被災地取材して以来、環境・エネルギーの現場を歩いてきた私は、早速フィンランドを訪ねました。以来3度、お菓子とお茶で心ゆくまで意見を交換する姿勢にいつも目を開かされています。女性がいきいきと働く姿にも背中を押されました。

2005年には、ユーラヨキ市のオルキオト原子力発電所で3号機の建設が始まっています。市の経済担当者によると、「1基建設すると、約2000人の労働人口が得られる」とのこと。「移住者と企業からの税金が入るので、自治体が豊かになる」そうです。

また、ユーラヨキ市は世界で初めて、原子力発電所で発生した使用済燃料の最終処分地にも決まりました。議員さんたちにお話を伺うと、ロビーサ発電所で出た使用済燃料や放射性廃棄物は、1983年まではロシアで処分していました。ユーラヨキ市と電力会社は1982年、ヨーロッパ諸国やロシアを見て回り、自分たちで処分した方が将来性のある事業として実現できる、と考えたそうです。

「ランチを一緒に」と、1時間いただいたのですが、デザート菓子パンが山ほど出てきて、コーヒーをおかわりしながら延々4時間のおしゃべりに。「ふだんもこんなにお話されるんですか?」と尋ねると、「エネルギーの話をしょっちゅう妻としているよ」「女性どうしても週に1度は話すわ」と笑ってらっしゃいました。

2022年、いよいよオルキオト3号機が発電を始めるというニュースが飛び込んできました。訪問のたび建設の進捗を見てただけに、「頑張っ!」と心の中でエールを送っています。



●資料出典

Web 原子力産業新聞2021年12月9日
『2021世界の原子力発電開発の動向』日本原子力産業協会
『平成30年度国際エネルギー情勢調査(諸外国のエネルギー政策動向及び国際エネルギー統計等調査事業)』
『諸外国のエネルギー政策動向に関する調査報告書』経済産業省資源エネルギー庁委託調査 日本エネルギー経済研究所
『みんなの知らない世界の原子力』海外電力調査会編著、日本電気協会新聞部発行

PROFILE

東嶋和子 とうじまわこ / 科学ジャーナリスト・青山学院大学非常勤講師

筑波大学卒。在学中、米国カンザス大学に文部省交換留学。読売新聞社科学部記者を経て独立。「いのち」をキーワードに科学と社会の関わりを追っている。主な著書に『水も過ぎれば毒になる 新・養生訓』『人体再生に挑む』『放射線利用の基礎知識』『死因事典』など。外務省外交フォーラム外務大臣賞、原子力学会社会・環境部会優秀活動賞受賞

